



close up  
まえ はた けん よう  
前 端 賢 洋 さん (馬場)

「両親から継いでくれと言われなかったけど、なんとなく継ごうかなあ」とまだ、やんわりした思いではあったが、家業である畜産を学ぶため盛岡農業高校へ進んだ。卒業後も滝沢村で酪農家のヘルパーをしながら、人工授精師の資格取得のため引き続き同校の特別専攻科へ。翌年、19歳の春、父が体調を崩した。家族を支えるため、特別専攻科の後半は自宅から通った。

現在は、町内の酪農家の専属ヘルパーとして朝晩、搾乳を担当、「乳牛なので、乳房炎にさせないよう搾乳器械のかけ具合に気をつけています」と話す。日中は、実家の和牛の手入れや牧草の収穫作業をし、「2番草を上手にいっぱい採ってくれた」と母・慶子さんも喜ぶ。農業青年クラブ「C・O・Wボーイズ」に参加し、後継者のネットワークを広げ、また、幼なじみとフットサルなど遊ぶ時間も大切にしている。

将来的な目標は「あそこの和牛なら間違いないといわれる農家になりたい」と話す賢洋さん。「少しずつ頭数を増やしたい。けどまずは、自分のカタチをつくりたい」と今の仕事に集中し、ひたむきに経験を積む。

ひたむきに経験を積み  
自分のカタチをつくりたい



close up  
まっ たつ とも ひこ  
廻 立 智 彦 さん (田の沢)

見渡す限り絶景が広がる上外川高原の大風車のもと、25キロ以上もある丸太を片手で軽々と持ち上げテキパキと作業をするのは、葛巻町森林組合の廻立智彦さん。小さい頃から廻立製材所を営む祖父母に連れられ、いつも山に行っていたので、木にはもともと興味があった。高校3年生の時、将来について色々考え自分自身と向き合った。あれこれ考えているうちに、「地元に残りたい」という気持ちと「祖父母のように木に関わる仕事をしてみたい」という思いが日に日に強くなり、森林組合に就職する決意を固めた。

高校時代は野球部に所属し、体力には自信があったつもり…。だった。「山は甘くなかったですね。今はだいたい体が慣れましたが、1年目は毎日体中が筋肉痛でした」と無我夢中で頑張った当手を振り返る。就職3年目を迎えた今、「木を切ったときの達成感、刈り払った後山を見渡した時の充実感がたまらない」と10年後の山の姿を心に描きながら林業の魅力に思いを寄せる。

将来は、「『この仕事は、廻立くんに任せよう』といわれる存在になれるよう、ずっと林業と向き合っていきたい」と固い決意をのぞかせた。また、「地元で就職できたのだから、地域の人たちと色々なことにチャレンジしたい」と意気込む。秋祭りまで一ヶ月を切った今、浦子内組の一員として仲間と準備にいそしむ毎日だ。

「この仕事は廻立くんに任せよう」  
そういわれる存在になりたい

## 新成人の「夢」と「目標」

今年の成人式では、74人の若者が大人の仲間入り。彼らの中には、すでに働いている人、学校で勉強中の人、結婚をした人、子育てをしている人などさまざま人がいます。

しかし、彼らに共通していることがあります。それは、自分の「夢」や「目標」に向かってひたむきに走りつづけていることです。今回は、そんな彼らの中から町内で働く2人の新成人をご紹介します。